

「知床世界自然遺産地域における生態系管理のための指標開発」

に関するワークショップ

知床は屋久島および白神山地に続いて、2005年に世界自然遺産に登録されました。しかしながら、自然遺産地域に生息するエゾシカの個体数増加と分布拡大にともなう食圧の高まりにより、大規模な植生後退が進行しつつあります。

また、世界自然遺産を監督するユネスコ世界遺産センター、国際自然保護連合、世界遺産委員会は、知床世界自然遺産地域連絡会議に対し「シカによる食害の許容限界を明確な指標により示す」よう勧告を行い（注）、2012年までに勧告の実施状況を報告するよう求めています。

このワークショップでは、これまで知床調査に関わってきた研究者、知床以外の生態系管理に関わってきた研究者がこれまでに得た成果を報告し、知床世界自然遺産地域における生態系管理のための指標開発に対して具体的提言を行うことを目的としています。

（注）ユネスコ世界遺産センターによる勧告

勧告10 遺産地域内の自然植生に対するエゾシカによる食害が許容可能なものか許容可能でないものかの限界点を明らかにすることができるような明確な指標を開発すべきである。

勧告11 知床半島エゾシカ管理計画と関連する実行計画の実施を継続すべきであるが、抑制措置が、遺産地域のエゾシカの個体群、生物多様性、生態系に及ぼす影響を注意深く観察すべきである。

日時： 2009年10月29日（木）10:00～17:00

場所： （独）森林総合研究所北海道支所会議室

〒062-8516 札幌市豊平区羊ヶ丘7番地 TEL 011-851-4131 / FAX 011-851-4167

支所までのアクセス手段は下記のホームページでご確認下さい。

<http://www.ffpri-hkd.affrc.go.jp/>

事前参加登録は不要です

報告：

あいさつ

川路則友（森林総研北海道支所長）

【基調講演】

生態系管理とシカ管理

小泉 透（森林総研）

【第1部】知床生態系管理が目指すもの

知床自然遺産地域におけるエゾシカ管理計画の概要と課題

梶 光一（東京農工大学）

知床自然遺産地域におけるシカが森林へ及ぼすインパクト評価

石川幸男（専修大学北海道短大）

知床岬エゾシカ密度操作実験開始後の植生変化

宮木雅美（酪農学園大学）

知床自然遺産地域におけるモニタリング調査の現状

山中正実（知床財団）

知床の適正な管理に向けて整備されたDBについて

立木靖之（エンビジョン）

【第2部】生態系管理の新たな視点

シカとササの相互作用の動態に基づく森林生態系管理

日野輝明（森林総研関西支所）

菌根菌の機能と生育に及ぼす立地条件の影響

山中高史（森林総研）

生態系管理におけるGIS利用

近藤洋史（森林総研九州支所）

北方針葉樹の天然更新様式

飯田滋生（森林総研北海道支所）

希少植物の保全手法 - レブンアツモリを例にして -

河原孝行（森林総研北海道支所）

環境指標生物としてのコウモリの可能性

福井 大（森林総研北海道支所）

総合討論 司会 川路則友

連絡先：〒305-8687 つくば市松の里1 独立行政法人森林総合研究所野生動物研究領域 小泉 透

電話：029-829-8256 ファクス：029-873-1543 e-mail：koizmy@affrc.go.jp